

学校法人内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第278号
(3月)
2026

ありのままの自分を思う育ち

学校法人内丸学園 理事長 坂本 洋

弥生三月を迎え子ども達の巣立ちの季節です。年長組は、早くも小学校入学を控え希望に満ちた澁瀬とした笑顔、そして元気な活動を見せてきています。

お預かりした幼児期の子どもの心の成長、教育と保育の成果がどの様なものか、これまでを振り返りしっかりと検証して、次年度に向け取り組むこととなります。

私ども幼児期の子どもの育ちを預かるものとしては、これからの荒波社会に生きる必要な土台として、特にありのままの自分を、今の自分自身の姿を前向きに感じ認める感覚を幼児なりに備えられて、自分自身のいろいろな出来事に対

して心が折れない、打たれ強さを持ち合わせている心の育ち姿・自己肯定感の育ちを重視して、強いて高めることを目標に関わって来ております。

これまでの諸調査結果で世界各国の子ども達に比較して、我が国の育ちが指摘され重要課題と思考からです。

これはなかなか簡単容易に育つことではなく、自分の長所だけでなく、短所や出来ないことや失敗してしまうことも含め「これが今の私」を感じられる心の育ちを中心として、自分だけがいない存在で、やればできる力があると思う自信

を育てたいのです。

このありのままの自分を認め感じる感覚の育ちは、幼児と特定の養育者(親や保育者)との関りで生まれる情緒的な結びつき心の安心感、アタッチメントと呼ばれる愛着形成と密接に結びついているといわれます。

この形成が不十分だと、自己肯定感が低くなり情緒不安定や対人関係の困難さにつながると指摘されております。

愛着心の育ちは、乳幼児期から両親を中心としたおんぶや抱っこスキンシップを通して育まれる心の安心・安定感、自分は愛され必要とされている心の安心基地の存在が土台であり、このことが主体的に物事に挑戦し短所や出来ないこと失敗しても心の安心基地に戻り受け入れられ励まされて、再び探索、探求行動に挑戦し、やり抜く力や感情をコントロールする力、そして他者を受け入れ協働する力が育つことを基本とします。私たちが幼児教育施設での担任教

師は、子どもとの愛着形成者であり心の安心基地であります。

担当する幼児の「ありのままの私、自分」を気付かせ考えようとする言葉かけや関りを改めて重視し、自己肯定感をしっかりと高める貴重な責任ある存在として努力しなければなりません。

養育保護者の皆様と共通認識を深め子ども達の肯定感を高め、効力感や自尊心の育ち、自律の基礎をしっかりと身に付けるよう心掛けたいと思います。



Aクラス「お家の方へのお点前」

Aクラス卒業おめでとう!

思い出をありがとう

Aクラス担任 古館 雪乃

Cクラスの頃から見守ってきた子ども達が卒業を迎えること、とても感慨深く思います。写真を見返すと、思い出すいろんな出来事と一緒に一人一人の成長もしみじみと感じています。

この一年、どんなことも素直な気持ちで前向きに取り組み、いろんな場面で「さすが年長さん!」とばかり思わせてくれるクラスでした。春はCクラスの手を優しく引いて園内探検。照れた表情が新鮮でした。強風の中県庁前でこのぼり掲揚&ダンスも頑張りました。四十分かけタッピングの畑まで歩いた後、黙々と苗植えをする真剣な顔もよく覚えていきます。夏は仲間と力を合わせて準備から一生懸命だったお楽しみ会。思いやりの心も育っているなあと感じた日々でした。熊や雨天等、自然にはかなわないことを実感した秋。その中でも、いつも通り

できることを楽しみ、力を発揮する子ども達に私達がパワーをもらっていました。冬は全員の心を合わせて取り組んだ聖誕劇。歌や台詞も日に日に上達して立派すぎるくらいでしたが、サンタさんの登場に目をキラキラと輝かせる子どもらしい姿に正直安心しました。コマ遊びやお茶会練習でも、最後までやり抜こうとしたり、仲間を助けてあげようとしていたりしていました。

一人一人にたくさんのお礼がとうの気持ちでいっぱいです。これから起こるどんな出来事も、きっと子ども達をもっともつと素敵にしてくれると思います。小学校でも自分らしさを見つけて輝いていてほしいです。応援しています!

保護者の皆様、園生活において多くのご理解・ご協力ありがとうございました。悩まれた日やご心配をおかけしたこともあったかと思いますが、共に貴重な日々を過ごせたこと感謝いたします。改めて、卒業おめでとうございます。

Aクラス保護者から

五年間のありがとうを胸に

Aクラス 月花 竜次

恵梨香 (凜緒)

つぼみクラス4月の慣らし保育の頃、毎朝泣きじゃくっていた娘のことを今でもよく覚えています。5月になっても泣くことが多く、「本当に慣れるのだろうか」と心配した日々が懐かしいです。それが今では、毎朝お友達のもとへ笑顔で駆けていき、帰ってきてからも園での出来事をうれしそうに話してくれます。この積み重ねが娘の大きな糧になったと感じています。

年長となったこの一年で最も心に残っているのは聖誕劇での姿です。人前が苦手だった娘が、舞台上でガブリエル役として堂々と歌う姿を見たとき、思わず涙がこぼれました。行事のたびに年長としての責任感と自信が育っているのを感じた、かけがえのない一年でした。園生活ずっと娘に寄り添って



『いつもここにAクラス』

くださった担任の先生への感謝は言葉につくせません。先生の笑顔と温かさが、娘に「幼稚園の先生になりたい」という夢を持たせてくれました。憧れの存在がそばにいてくれる環境に、心より感謝申し上げます。大好きな先生とお友達に囲まれた一歳からの五年間は、りおにとつてきつと一生の宝物です。本当にありがとうございました。

進級おめでとう!

『好き!』を広げて

いちこクラス担任 湯川 千尋

子ども達が興味のあることへ安心して向かい、自分の『好き!』『やりたい!』を見つけて充分楽しむことを大切に...と、過ごしてきた一年。虫に夢中で、ダンゴムシやアリを探しに、毎日外に出て遊んだ春。裏庭のアサガオを使って色水作りをしたり、プールに入って水の気持ちよさを感じたりと、季節ならではの遊びを楽しんだ夏。お散歩先で、きれいな落ち葉や松ぼっくりなど素敵な宝物をたくさん見つけた秋。雪の上に寝転んだり、ソリ滑りをしたり、先生と雪合戦をしたり、思い切り遊んだ冬。水を外に置いておいて氷作りをする、「凍ってる!」「なんで?」と自然の不思議さや面白さに目を輝かせていました。

毎日いろいろな経験、吸収をして、体だけでなく心も成長した子ども達。最近は一〇〇くんの好きな恐竜の絵本、一緒に見よう!」「一〇〇ちゃんはこのが好きだから、貸してあ

げるね」など、お互いの『好き!』もわかって遊ぶ様子が見られるようになってきました。自分の『好き!』が周りにも広がって一緒に楽しめるようになり、言葉で伝えようとしてたり共有したりする姿から、個々の育ちと共に優しさや思いやりの心を感じ、嬉しく思っています。

三学期からは、当番活動(クラスのお手伝い・給食とおやつ時の挨拶)や食後の後始末などにも挑戦し、進級に向けて少しずつ取り組んでいるところ。もうお兄さん、お姉さんだからできる!と、Cクラスになることに期待をもち、張り切って頑張っている子ども達に頼もしいです。

最後になりましたが、保護者の方々には日頃よりご理解ご協力を頂き、感謝しております。これからも子ども達一人一人が『好き!』をどんどん広げていきますように! 保育部から応援しています!



いちこクラス保護者から

つぼみからいちこへ育んだ

2年間

いちこクラス 内館 康喜

(世亜)

「何組ですか?」の問いに「グミが好きです!」と返したお調子者の息子も、いちこクラスでの生活を経て逞しくなりました。散歩で拾った松ぼっくり、夢中だった裏庭のアリ観察。園での豊かな経験が彼の語彙を増やし、「悔しい」「恥ずかしい」といった機微な感情も、大好きなお友達の名前も、自らの言葉で伝えてくれるようになりました。

進級という節目に立ち、四月からの連絡帳を読み返すと、溢れるほどの感謝が込み上げます。初めての遠足、夏のプール、恥ずかしくて親から離れられなかった運動会。一つひとつの行事や何気ない日常の中で、息子は「自分以外の誰か」を意識し、集団生活や共に歩むことの心地よさを肌で感じ取っていたように思います。

ときには自分の思い通りにいか



『みんな仲良し!』

ず葛藤し、お友達とぶつかってしまったこともありました。それでも先生方は一人で遊ぶ姿を「高い集中力」と捉え、衝突さえも「共生を学ぶステップ」として、常に前向きな言葉で包んでくださいました。その粘り強いご指導と温かな眼差しに、親である私たちもまた何度も救われ、視界を広げてもらった一年でした。

四月からは幼稚園生。鬼のお面を被ってバスに乗り込んだ、あの無邪気な好奇心を大切にしながら、この一年で芽生えた「他者を想う優しさ」を根っこに、大好きな先生やお友達に囲まれて伸び伸びと成長していく姿を願っています。

1ねん おも

はる



一つ大きくなった喜びやあたたかい春の風の心地よさを感じながら、のびのびと遊びました。



砂場では、お店屋さんごっこ・山作り・・・子どもたちのアイデアで様々な遊びが始まりました。



アリやダンゴムシなど小さな虫たちも顔を出し・・・夢中になって探したね！



なつ



真夏の太陽の下、冷たいプールがとっても気持ちよかったね！



子どもたちと一緒に観察園の野菜もすくすく大きくなりました！



水や砂、泥のさらさら、どろどろの感触を楽しみました。



い で

あき



Aクラスが大切に育てたサツマイモ！焼きいも会では、みんなでおいしくいただきました。



夏に栽培したアサガオやオシロイバナで色水作りを楽しみました！



保育部さんは、たくさんお散歩にも出掛けたね！

ふゆ



園庭に雪が降り積もると、大喜びの子どもたち！寒さに負けず、元気に雪遊びをしました。



Aクラスはコマ回しにも挑戦！



保育参観(幼稚園部)

Bクラス

2月19日、子ども達が指折り数えて待っていた保育参観があり、「くすのきだんちのコンサート」という絵本を題材に劇遊びをお見せしました。絵本も歌も楽器も好きなBクラスにはぴったりの内容で、たくさんの動物がいる中から役決めをするところから始まりました。練習を重ねていくうちに台詞を覚え、大きな声で言えるようになったり、物語と同じように動いてみたりして、みんなで一つの目標に向かって取り組む姿勢を感じました。自分なりに表現をする子、友達と一緒に表現する子、それぞれが楽しみながら参加できたと思います。クラス全員で作り上げた劇は大成功☆達成感を味わい、またひとつ大きくなったBクラスです！劇が終わってからも、くすのきだんちシリーズの絵本が大好きで何回も繰り返し読み、新たな発見や予想をしてまだまだ楽しんでいきます♪



Cクラス

C1クラスは「もっともっとおおきなおなべ」C2クラスは「もりのおふろ」の絵本をもとに、劇ごっこの様子を見ていただきました。どちらのクラスもかわいらしい動物が登場し、自分の好きな動物を選んで役を決めました。

初めての経験に緊張している子、いつも以上に張り切っている子・・・と様々な姿がありましたが、3歳児らしいかわいらしい様子を見ていただけたのではないかなと感じています。お家の方々には、温かく見守っていただきありがとうございます。

進級・入園から1年が経とうとしているこの時期、子どもたちのたくましくなった姿や“友達と一緒に”ということに安心感を得ている姿に成長を感じ、嬉しくなりました。



～ふたば会よりご寄贈をいただきました～

ふたば会より、子どもたちの保育環境の整備のために、コロナ以前に保護者主体で行っていた「ふたばまつり」の収益金30万円を活用してほしいとご寄付の申し出がございました。

園として有難く頂戴し、子ども達のために大切に使用させていただきますと思います。

☆ OK グルグル ☆

お昼寝の時間になり、みんなが寝入りはじめた頃、突然大きな声で「オッケーグルグル！」と話すTくん。すると、あの「Google」のことを言っているかのように、起きていた子たちが「オッケーグルグル！」と次々に言い出しました。

Tくんのお家の方に聞くと「オッケーグルグル」で曲がたまにかかってしまうとか(笑)

— 1歳児 —

☆ こんな寒い日には… ☆

1月下旬。寒さに負けず雪遊びをしていたCクラス。

そんなときにTくんが

「こんな寒い日には豚汁がたべたくなるな～」と大人な一言。その一言が心に残り、その日の夜ご飯は豚汁にした担任でした。Tくん！やっぱり寒い日の豚汁は最高だね！ — 3歳児 —



こどものつぶやき
～日常のエピソード～



学校法人 内丸学園
幼保連携型認定こども園
盛岡幼稚園
盛岡市中央通一六―四七
TEL 六二二―三三〇一
理事長 坂本 洋